

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800324		
法人名	社会福祉法人天心会		
事業所名	グループホームすこやか1		
所在地	福島県喜多方市松山町村松字北原3656-1		
自己評価作成日	平成28年12月26日	評価結果市町村受理日	平成29年5月8日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成29年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>○利用者様の思いや、出来る事に目を向け、センター方式ケアプランに取り入れ、その方らしい暮らしが出来る様支援している。</p> <p>○地域の方の理解と協力を頂きながら、地区の行事に参加したり、ホームの行事にボランティアとして参加して頂き、日頃なかなか外出できない入居者と交流を図っていただいている。認知症カフェを開催し地域の方々に認知症の理解が得られるよう働きかけている。</p> <p>○医療福祉ゾーンの一画にあり、必要な時に専門医の医療を受ける事が出来る。また、緊急時の協力体制が整っている。</p> <p>○月1回の部署会議、勉強会、法人単位での研修会が年間計画され、知識を深め、職員の資質の向上に積極的に努めている。</p>

<p>1. 理念に沿った支援に取り組んでおり、運営推進会議で理念について話し合い、年間事業計画を策定し、地域との交流や認知症カフェ、各種ボランティアの受入れ、保育所・中学生との交流を深め、季節に応じた外出支援等を実施している。</p> <p>2. 年間研修計画により、職員の経験や職務遂行能力等に応じた研修の機会を設け、職場内・外研修や復命・伝達研修、学習会を実施し、人材育成と職員の資質の向上を図りながらサービスの提供を行っている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を目につくところに掲示している。実践に繋がられる様、勉強会等で定期的に話し合いの場を持ち、取り組んでいる。声に出して読む事で意識付けになっている。	理念を事業所内に掲示し、全体会議で唱和し共有しながらサービス提供に取り組んでいる。また、各種委員会等において理念を意識した目標を定め、サービスに繋がるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所が地域の一員として、地域の行事、お祭り、文化祭などに参加したり、事業所の行事では、笹巻き作り時にボランティアとして参加して頂き交流する事につとめている。すこやかで開催している認知症カフェに参加して頂ける様、チラシを作成し、地区の回覧板に協力を頂いている。	地域自治会に加入し、地区の祭りや文化祭、行事などに参加している。また、事業所の夏祭りや認知症カフェなどで地域の方との交流をもち、各種ボランティア、中学生体験学習を受入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で日常の生活の様子をスライドショーにて紹介している。地域の行事、いきいきサロン等に参加し認知症への理解を得られる様努めている。幼稚園との地域交流で、相互訪問を行っており、卒園前にはお祝いのカードを贈っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	運営推進会議で事業所の取り組み等を報告し、意見を頂いている。意見を活かし、より良いサービスが提供出来る様務めている。利用者様から裏の河川の除草を行政に依頼した所すぐに、動いて下さった。	会議は定期的に行われ、事業所の理念や運営・利用者状況、サービス評価、避難訓練などについて報告し、委員から意見を頂き、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市のグループホーム連絡会や運営推進会議の中で、交流の機会を持ち、協力関係を築く様取り組んでいる。介護相談員が定期的に訪問され、率直な意見を頂いている。	市の担当者とは、運営推進会議や介護相談員との会議など、各種会議を通じて情報を共有し、災害時に事業所で受入れ可能な被災者の情報について協議するなど協力関係を深めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人やグループで委員会が設置されており、いつでも話し合える体制が整っている。身体的拘束や精神的拘束にならないケアについても考えながら取り組んでいる。	身体拘束・虐待防止委員会が中心となり研修会や学習会を開催し、身体拘束の具体的な行為やその及ぼす影響などについて共通理解をもち、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠はしていない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	法人内や部署内の勉強会で学ぶ機会を設けている。話し合いの場を持ち、虐待の防止の徹底に努めている。特に法人全体では年1回全員参加型の研修会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会で学んだことを勉強会で報告し、職員で情報を共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族様に分かりやすく伝え理解、納得したうえで契約の締結や解約を行なっている。改正の際には、文書にて説明させて頂いている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃の会話からまた、御家族面会時に利用者様や家族様の意向を伺いながら気持ちを汲み取り、苦情・要望ノートを作成し、職員間で話し合いを行なっている。法人の第三者委員で解決報告し、運営に反映させている。	日頃から利用者との関わりや会話、運営推進会議を通し意見や要望を把握するよう努め、家族からは運営推進会議、面会時、行事などで意見や要望を聞き、全職員で話し合い共有しながら運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は、勉強会、人事考課の面談等で自由に意見が言える環境が整っており、意見や提案が反映されている。	管理者は日頃から職員が、意見や提案を出しやすい雰囲気づくりに努めており、会議や勉強会、人事考課の面談などを通して職員の意見や提案などを聞き、運営やサービスに活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度があり、職員一人一人が目標と向上心を持ち、やりがいに繋げている。福利厚生も明文化されており、年1回の職員旅行を企画している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修の機会を設けている。研修を通じて職員一人一人がレベルアップ出来る様取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が市のグループホーム連絡協議会や福島県認知症グループホーム協議会へ参加し勉強会や意見交換を行い、サービスの質の向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居が決まって、入所時の見学や説明と同時に御本人の悩み、御本人の希望や要望をお聞きし、入所際の不安を解消できるよう細かな説明とと安心出来る様な対応を心掛けている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込みに来所された際に、御家族様に見学して頂き御本人の情報をお聞きしながら、困っている事などもお話しできるような雰囲気作りをし、不安無く施設をご利用して頂けるようご要望をお聞きする。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族様の今の状況に見合った支援は何かを一緒に考え、その時に必要な支援を見極め、ケアプランに取り入れより良い援助を提供していく。他のサービス利用は行っていない。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族の気持ちになって、一緒に日常の活動を行なって感謝し敬って日々の生活を送っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様の協力を頂き、面会、外出、園外活動など一緒に利用者様の楽しみや活動のお手伝いをして頂くことで、行事のお知らせをし関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人のこれまでの生活や環境や馴染みの人や場所を御家族様や御本人にお聞きし、今までと変わらない関係づくりが出来る様出掛けたり来て頂いたり支援に努めている。	馴染みの理美容室や家族の協力で墓参りや外出、外食などに出かけ、認知症カフェで知人との交流を持ちながら、これまでの関係が継続できるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の様子を伺、皆さんとの日常の会話に耳を傾け利用者様同士がどんな考えを持って生活しておられるか間に入って声掛けコミュニケーションを取っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院などで一旦契約が終了しても、面会に行き様子を伺って経過を家族から伺いながら、次に繋げて行けるよう相談や支援し安心して頂く。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の生活や本人の話から意向を伺い、その方らしい生活が送れるようケアプランを作成している。ケアプランの見直し時期にはカンファレンスをしその方の情報や支援の仕方を共有している。	日常生活での会話や話題の中から、利用者の希望や意向の把握に努めている。困難な場合は、家族からの情報や生活の中での表情や仕草から意向を汲み取り、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族やケアマネから情報を頂きながらセンター方式のアセスメントシートにて今までの生活情報を職員間で共有し把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	アセスメントシートで1日の過ごし方を確認し、カンファレンスで心身の変化を話し合いながらその方の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からは毎日の生活から、家族からは面会時に生活における要望や意向を伺いながらケアプランを作成している。3か月ごとのカンファレンスでは本人の状態や要望などに変化がないかを確認しながら見直しをしている。	担当職員が、利用者の意向や生活状況をアセスメントした結果、抽出された課題の改善をめざし、職員会議で話し合い、家族等の意見を反映した介護計画を作成している。また、利用者の心身状態の変化に応じて計画の見直しも行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日、日常生活や状況の変化を記録し残す事によって情報を共有している。気づきや工夫を書いた申し送りノートを活用し話し合いながらケアプランを見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望を聞き入れ、ホームではどのように支援できるかを話し合いながら出来るだけすぐに対応している。法人内や近隣の事業所との協力体制ができており、専門職と相談しながら連携を図っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報やいきいきサロンへの参加や2カ月に1度の運営推進会議や認知症カフェに参加頂くことで相互の活動や行事を把握し交流を図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人または家族の意向を入居時に確認し、協力医療関係機関がかかりつけ医となっている。また、希望や必要に応じ、以前からの医療機関への通院も行なっている。	希望のかかりつけ医の受診ができ、通院付き添いは家族、職員が状況に応じて行い、結果を共有している。緊急時の受診も運営法人の病院が協力医療機関のため、医療連携体制が整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師1名配置されている。日頃の状態を報告し、看護師との連携を図りながら、受診へつなげている。緊急の場合、法人の看護師や協力医療機関の看護師に相談し協力を得ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時、相互の連絡表を使用し、情報交換を行なっている。入院中は面会に行き、本人の状態を確認、または看護師より病状を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りについての指針が作成されている。終末期については、その段階となった場合、家族の意向や病院との話し合いをする場を設け、対応している。	契約時に重度化、終末期の対応指針を説明し、同意を得ている。対応については、医師、家族、職員が意向を確認しながら、段階ごとに対応方針の共有を図り、支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な勉強会にて、緊急時または事故発生時対応について確認を行なっている。また、日頃、疑問点や不安な事について話し合う場を作り、改善策へとつなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月の避難訓練を、火災、地震、水害、夜間想定で行っており、問題点をあげ職員で話し合い、運営推進会議で委員の方々に見聞を伺っている。	夜間想定を含む、火災、水害、地震など各種災害想定での避難訓練、防災機器の操作訓練を計画的に毎月実施している。敷地内の他施設の協力体制があり、非常備蓄が常備されている。しかし、消防署職員の訓練立ち会いや指導はなく、災害時の地域住民の協力体制がない。	毎月実施している防災訓練の質の向上のため、消防署職員の立ち会い・指導を受けることや、地域住民と災害時の協力関係を構築するよう運営推進会議などで検討して欲しい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	挨拶や日頃のお話、何かお願いする際も丁寧な言葉遣いを心掛けながら、失礼のない対応をしている。排泄などのプライバシーを損ねない様に、状況に合わせて言葉を選んだり声の大きさに気を付けている。	個人情報の保護や利用者接遇マニュアルを整備し、研修を行っており、管理者も各種会議などで職員に周知している。誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応に職員も配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様とのお話や関わりを多く持ちながら、職員に遠慮なく言って頂けるような関係を目指している。うまく言葉で伝えられない方の思いにも読み取れるように関わっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人の得意とする事を把握し、またその日の気分にも応じながら、ゆったりとした雰囲気の中で家庭的な時間を過ごしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は出来るだけご自分で選んで頂き、気温や組み合わせ等で調節が必要な場合はお手伝いしている。訪問理容、希望の方はかかりつけの美容院で好みの髪型にされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	日頃より野菜の切り方等の下ごしらえや、盛り付けを行なって頂いている。畑の野菜と一緒に収穫し、摂れたての物を味わう事が出来ている。行事の際はメニューを工夫している。	法人の管理栄養士が作成した献立を基本にしている。自家菜園で収穫した野菜を調理し、下準備、盛り付け、配膳、下膳、テーブル拭きなどの作業と一緒にしている。誕生会では好みの外食に出掛けたり、季節の行事食を工夫して提供するなど楽しく食事ができるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人管理栄養士の作成した献立を元に提供している。食事にムラがあったり水分摂取が少ない方にはチェック表を用いながら、好みの物を考慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後にうがいや義歯洗浄を手伝いながら清潔に保っている。うがいが難しい方は口腔ティッシュを用いている。自立している方でも必要時にはお誘いしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄の間隔や理解を考慮しながら、トイレへお誘いする際は周囲の方への羞恥心に気を配ってさりげなく声を掛けています。紙パンツやパットの使用については排泄状況に合わせてながら見直している。	排泄チェック表で、一人ひとりの様子や表情から排泄のタイミングを把握し、羞恥心に配慮しながらできるだけ自分の居室のトイレで排泄できるよう支援している。パットや紙パンツの見直しなど自立に向けた取り組みを行い、向上する方も出ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、お茶飲みの際に寒天ゼリーを提供し、薬に頼らない便通を考えている。いつでも好きな時に飲み物を提供し、ラジオ体操や掃除等で身体を動かす事で便歩予防も兼ねている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を好む方やそうでない方と気分もあり、時間や言葉掛けを工夫しながらお誘いしている。入浴剤を選んでもらったり、冬には柚子湯を行なっている。	一人ひとり希望する時間帯や回数で入浴できるよう支援しているが、ほとんどの方は週2回入浴になっている。季節の菖蒲湯や柚子湯、入浴剤の使用などで楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の習慣で、休息したり、就寝されている。その方のペースに合わせて、安心してゆっくり休めるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者様の手元に届くまで複数の職員が、チェックを行い、飲み忘れや誤薬のないよう服薬して頂いている。薬の目的や副作用について理解しており、服薬中の変化についても観察をおこなっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	好みの活動や出来る事を行って頂くことで、明るく楽しみを持ち、充実した生活を送って頂けるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候を見ながら、外出支援を行い屋内では感じにくい季節の変化を感じて頂いたり、地域の方々との交流を行っている。ご家族様も外出支援に協力して下さい。	敷地内の散歩や家族にも協力頂いて買い物、外出に出掛けたり、菜の花、菖蒲、ひまわり、コスモスなど季節の花を見学するドライブをするなど希望に沿ってできるだけ外出する機会を多くするよう取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望があれば、事故管理が出来るよう支援している。事務所に大切に保管している事をお伝えし、必要な物がある時や、買い物、外出時には、いつでも使えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時や不安時には、いつでも電話でお話出来るように支援している。家族の協力も得られている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔に務め、季節の花や飾りで季節感を出し、家庭的な工夫をしている。居間にコタツを作り、家庭的な雰囲気作りを行っている。窓からは畑が見え、野菜の成長を楽しみにしている。	明るく、ゆったりした共用フロアで、快適な空調に調節されている。五段の雛飾りや観葉植物、お地蔵様の共同作品、行事写真、利用者の書道作品などが飾られ、季節感を取り入れた居心地良い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いの場所で、又気の合った方々で話をされたり、テレビを観たりと寛げるようソファや椅子、こたつをを設置し、居心地の良い空間を設けている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	愛着のある品物や、思い出深い物を持って来て頂き、今までの生活感を大切にしている。居室に伺う際には、プライバシーの空間であることを配慮している。	各居室にはトイレ、洗面所があり、床は1階は畳み敷き、2階は絨毯になっている。利用者に対応したベットを使用し、家族写真、タンス、椅子、布団、テーブル、テレビ、位牌など思い出の物を持ち込み、その人らしく暮らせるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の状態を把握し、安全に自立した生活が出来る様、手すりやベッドの位置を調整し、設置している。		